

OPOS Driver マニュアル

インストールマニュアル Installer

Version 1.00 Nov. 2011

ご注意

- (1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載、複写、複製、改ざんすることは、固くお断りいたします。
- (2) 本書の内容につきましては、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容につきましては、万全を期して作成いたしましたが、万一誤り、記載もれなど、お気付きの点がございましたらご連絡くださいますようお願いいたします。
- (4) このソフトウェアは、指定された装置以外には使用できません。
- (5) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

商標

Microsoft®、Windows®、Windows Vista®、Windows Server®、Visual Basic®、Visual C++® は、米国マイクロソフト社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

EPSON®は、セイコーエプソン（株）の登録商標です。

ESC/POS®は、セイコーエプソン（株）の登録商標です。

その他、記載されている会社名、製品名は、各社の商標、または登録商標です。

目次

第1章 開発全般	1
1.1 特徴	1
1.2 動作環境	1
1.3 必要なシステム構成	2
第2章 インストール	4
2.1 インストールの特徴	4
2.2 インストールディスクの説明	5
2.3 インストール操作	5
2.3.1 はじめてインストールする場合	5
2.3.2 上書きインストールする場合	14
2.4 インストールされるファイル	23
2.5 インストールの種類	24
2.6 COの登録	24
2.6.1 CCOの更新方法	25
2.7 レジストリファイルを使用したインストール方法	25
2.8 アドイン機能（サービスパック）について	27
2.9 サイレントインストール	30
2.10 インストール時のメッセージ	34
2.10.1 起動時のメッセージ	34
2.10.2 インストール動作中のメッセージ	35
2.10.3 インストール後のドライバインストール時のメッセージ	35
2.10.4 サイレントモード指定時のメッセージ	36
2.10.5 レジストリファイル関連のメッセージ	36
2.10.6 アドインインストールのメッセージ	37
2.11 インストール時の注意	38
第3章 アンインストール	39
3.1 アンインストール操作	39
3.2 アンインストールの種類	40
3.3 サイレントアンインストール	41
3.4 アンインストール時のメッセージ	43
3.4.1 アンインストーラで表示するメッセージ	43
3.4.2 リカバリツールで表示するメッセージ	44
3.5 アンインストール時の注意	44

第 4 章 注意事項.....	45
-----------------	----

第1章 開発全般

ここでは、OPOS Driver の概要について説明します。

1.1 特徴

OPOS Driver は、POS システムを構成する周辺機器に係わるインターフェイスの標準化を行い、使用する OS のプラットフォーム上でサポートされる ActiveX Control を用いて、Visual Basic から容易に利用できる API 関数を提供します。標準化された API を用いて POS アプリケーションを開発することにより、オープンで多機能な POS システムの構築が可能となります。

1.2 動作環境

OPOS Driver は、以下の環境で動作を確認しています。

- コンピュータ本体

IBM PC/AT 互換機

CPU やメモリなどのパソコンの動作環境については、各オペレーティングシステムの推奨値に従ってください。

- オペレーティングシステム

Windows 7 日本語版

Windows Vista 日本語版

Windows XP 日本語版

Windows Embedded POSReady 2009 日本語版

各オペレーティングシステムのバージョンの詳細につきましては、インストールディスクに同梱されているリリースノート (ReInote.txt) を参照してください。

Internet Explorer (日本語版) : バージョン 5.0 以上 (推奨)

Windows Vista 以降の環境ではサポートしていないデバイスがあります。詳細につきましては、インストール ディスクに同梱されているリリースノート (SupportedDevicesList.txt) を参照してください。

- 対象シリアルポート

COM1, COM2, COM3, COM4 (拡張ポートの使用により COM5 ~ COM10 も使用可能)

- 対象パラレルポート

LPT1, LPT2, LPT3 (ただし、LPT3 に関しては動作未確認)

- 対象 USB ポート

次の条件を満たしていることが必要となります。

- ・ USB コネクタを持ち、USB 拡張カードを使用した IBM PC/AT 互換機に正常に USB 機器が接続されていること。

なお、Windows 98 日本語版以前に発売された USB コネクタを持つ IBM PC/AT 互換機を使用していて、USB デバイスの認識等が正常に行えない場合は、使用している IBM PC/AT 互換機メーカーにお問い合わせください。

■ 対象ネットワーク

TCP/IP をサポートしたネットワーク環境下で動作します。

ネットワークの各種設定は、使用するネットワーク環境の管理者にお問い合わせください。

■ サポート言語

Microsoft Visual BASIC Ver6.0 以上 日本語版

Microsoft Visual C++ Ver6.0 以上 日本語版

■ 対象デバイス

対象デバイスの詳細につきましては、インストールディスクに同梱されているリリースノート(SupportedDevicesList.txt)を参照してください。

1.3 必要なシステム構成

OPOS Driver を使用したアプリケーションを開発するには、次のようなハードウェア、およびソフトウェア構成が必要です。

■ コンピュータ本体

IBM PC/AT 互換機

CPU やメモリなどのパソコンの動作環境については、各オペレーティングシステムの推奨値に従ってください。

■ オペレーティングシステム

Windows 7 日本語版

Windows Vista 日本語版

Windows XP 日本語版

Windows Embedded POSReady 2009 日本語版

■ ハードディスク、メモリ

使用する OS が推奨している容量に加え、ハードディスクの空き容量が最低でも 10M バイト必要です。

■ パッケージの内容

OPOS Driver に関するソフトウェアやマニュアルが格納されています。次に示す内容がすべて揃っていることを確認してください。

パッケージの内容は、次のとおりです。

< サンプルプログラム >

OPOS Driver インストールディスクには、デバイスごとのサンプルプログラムが用意されています。

< マニュアル >

OPOS Driver のパッケージには次のマニュアルが含まれます。

- ・ 「ユーザズガイド」

OPOS Driver のインストール、環境設定の方法について記述したガイドです。

- ・ 「アプリケーション開発ガイド」

周辺機器の制御方法について、プログラミング例を用いて説明したガイドです。

OPOS Driver 全般、および各デバイスの一般的なことが記載されている共通編と、それぞれの機種に依存する事項が書かれている機種別編とに分かれています。「OPOS Driver マニュアル アプリケーション開発ガイド 開発全般」の共通編と、お使いになる機種のドキュメントを参照してください。

第2章 インストール

OPOS Driver のインストールプログラムを実行することで、OPOS Driver のインストールに必要なすべての処理を行うことができます。

インストールでは、OPOS を快適に使用していただくための幾つかの機能を提供しています。詳細につきましては、本章をお読みください。

インストール / 再インストールを行う場合は、OPOS のファイルを使用しているアプリケーションはもちろんのこと、他のアプリケーションが動作していないことを必ずご確認ください。

OPOS Driver をインストールした後は、ポート、およびデバイスの環境設定を確認していただく必要があります。

詳細につきましては、「OPOS Driver マニュアル ユーザーズマニュアル Installer/SetupPOS/RP1USB」の「第5章 SetupPOS ユーティリティ」を参照してください。以下に、OPOS Driver のインストールプログラムについてご説明します。

2.1 インストールの特徴

本インストールは、InstallShield 12 を使用して作成されています。

大きく分けると以下の処理を実現します。

- ・インストール先ディレクトリの指定
- ・インストール先フォルダの指定
- ・OPOS に関する初期設定の指定
- ・REG ファイルの指定
- ・タイプ別インストール
 - ・フルインストール (Common CO)
 - ・カスタムインストール
 - ・デバイスクラス単位の選択、CO の選択
- ・マニュアル、Sample プログラムのインストール
- ・RP1USB ドライバのインストール
- ・タイプ別アンインストール
 - ・フルアンインストール (すべて)

- ・カスタムアンインストール
 - ・SO の選択
- ・アドイン（サービスパック、ファイルのアップデート対応）
- ・サイレントモードのインストール/アンインストール

2.2 インストールディスクの説明

インストールディスクは、CD のみとなります。FD からのインストールはサポートしていません。手順に従い、インストールを行ってください。

2.3 インストール操作

以下に、インストール方法を記載します。

なお、使用するマシンの特権レベルを持ったユーザー以外はインストールを行うことができません。使用するマシンの特権レベルを持つユーザーにご相談ください。

また、USB のデバイスを使用する場合は、「RP1USB Driver」をインストールしておく必要があります。

「RP1USB Driver」がインストールされていない場合は、USB を使用したデバイスの登録が正常に行われません。

「RP1USB Driver」につきましては、「OPOS Driver マニュアル ユーザーズマニュアル Installer/SetupPOS/RP1USB」の「第 6 章 RP1USB Driver」を参照してください。

2.3.1 はじめてインストールする場合

OPOS Driver がインストールされていない環境にインストールを実施する場合の手順は、以下のとおりです。

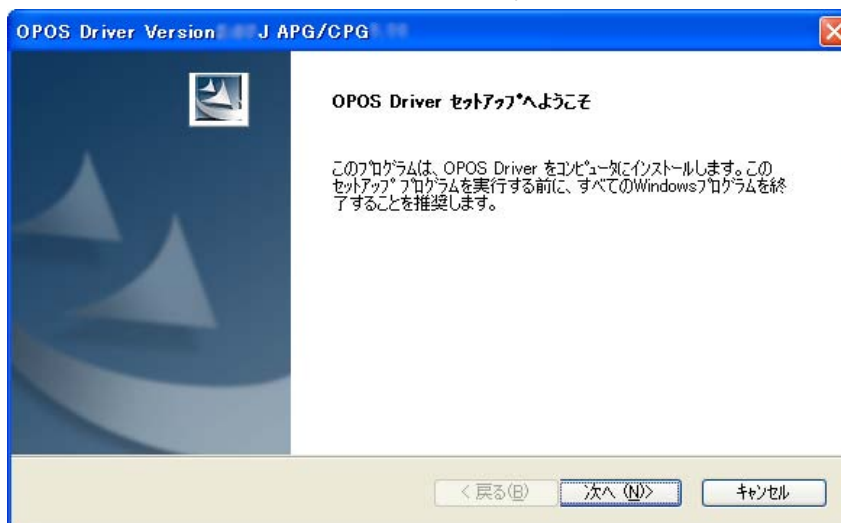
< インストール手順 >

ST-EP4_OPOS_J.exe を実行してください。

この時、他のプログラムはすべて終了させてください。インストールに失敗する場合があります。

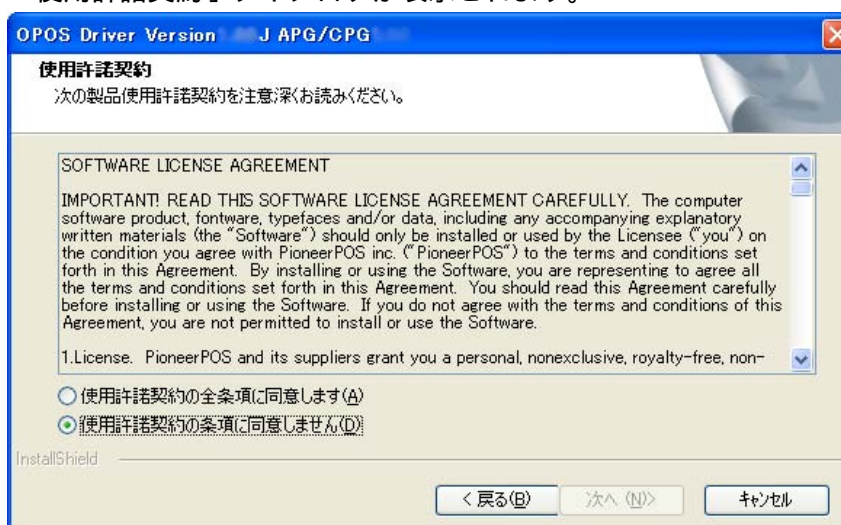
起動するまでに十数秒かかりますので、しばらくお待ちください。

「ようこそ」ダイアログが表示されます。



了解されましたら、[次へ] ボタンを選択してください。

「使用許諾契約」ダイアログが表示されます。



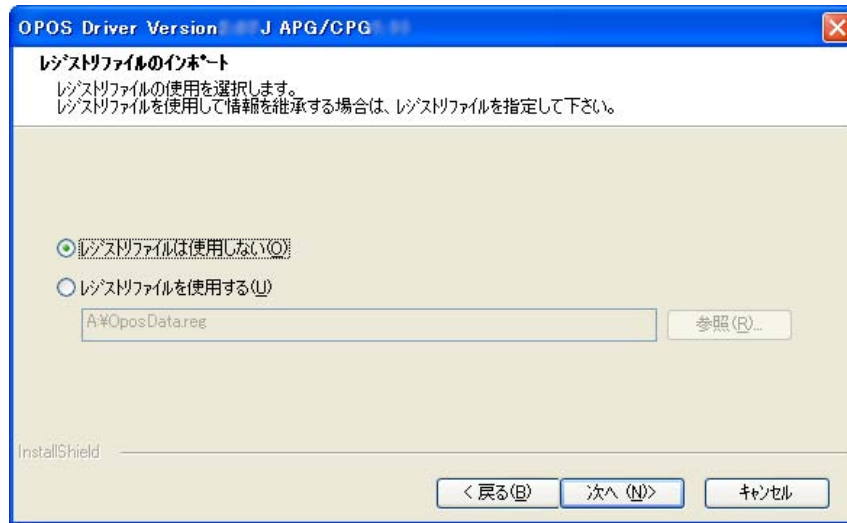
OPOS Driver をインストールするには、表示されている契約に同意していただく必要があります。記載されている内容をお読みください。

同意される場合は、「使用許諾契約の全条項に同意します」を選択してください。[次へ] ボタンが有効になります。[次へ] ボタンを選択してください。

同意されない場合は、「使用許諾契約の条項に同意しません」を選択した後に [キャンセル] ボタンを選択してください。インストールを終了します。

前のダイアログに戻りたい場合は、[戻る] ボタンを選択してください。

「レジストリファイルのインポート」ダイアログが表示されます。



REG ファイルを使用しない場合には、「レジストリファイルは使用しない」を選択し、[次へ] ボタンを選択してください。

REG ファイルを使用する場合には、「レジストリファイルを使用する」を選択してください。選択するとテキストボックスが有効になります。

使用する REG ファイルをフルパス指定で入力し、[次へ] ボタンを選択してください。[参照] ボタンを選択してフォルダを指定することも可能です。

REG ファイルとは、OPOS Driver に関する情報を復元するためのファイルです。SetupPOS ユーティリティを使用して作成してください。

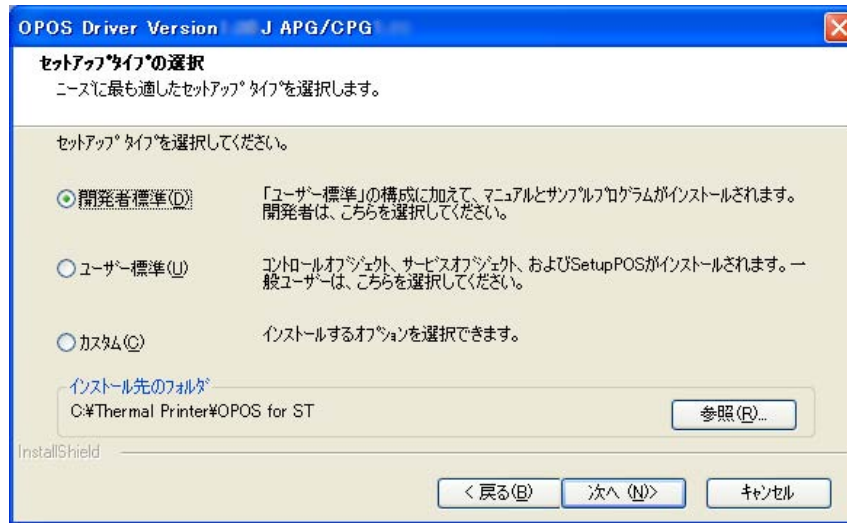
不正な REG ファイルが選択された場合には、エラーメッセージが表示され、次のダイアログボックスに移ることはできません。エラーメッセージに従い、REG ファイルが正しいかどうかを確認してください。

REG ファイルが正しく設定されると、これ以降の情報は REG ファイルから参照されます。

前のダイアログに戻りたい場合は、[戻る] ボタンを選択してください。

インストールを終了したい場合は、[キャンセル] ボタンを選択してください。

「セットアップタイプの選択」ダイアログが表示されます。



インストールするセットアップタイプを選択してください。セットアップタイプには、「開発者標準」、「ユーザー標準」、「カスタム」があります。

各タイプの内容は、以下のとおりです。

・開発者標準

コンポーネント：

プログラムのフルインストール

マニュアル

サンプルプログラム

CO：（サポート OS 共通）

<新規インストール> CCO

・ユーザー標準

コンポーネント：

プログラムのフルインストール

CO：（サポート OS 共通）

<新規インストール> CCO

・カスタム

インストールするコンポーネントを選択します。

タイプが決定しましたら、[次へ] ボタンを選択してください。

「開発者標準」と「ユーザー標準」を選択した場合は、「ファイルコピーの開始」ダイアログが表示されます。内容を確認して、[次へ] ボタンを選択してください。

「カスタム」を選択した場合は、「登録する CO の選択」ダイアログが表示されます。

前のダイアログに戻りたい場合は、[戻る] ボタンを選択してください。

インストールを終了したい場合は、[キャンセル] ボタンを選択してください。

「登録する CO の選択」ダイアログが表示されます。

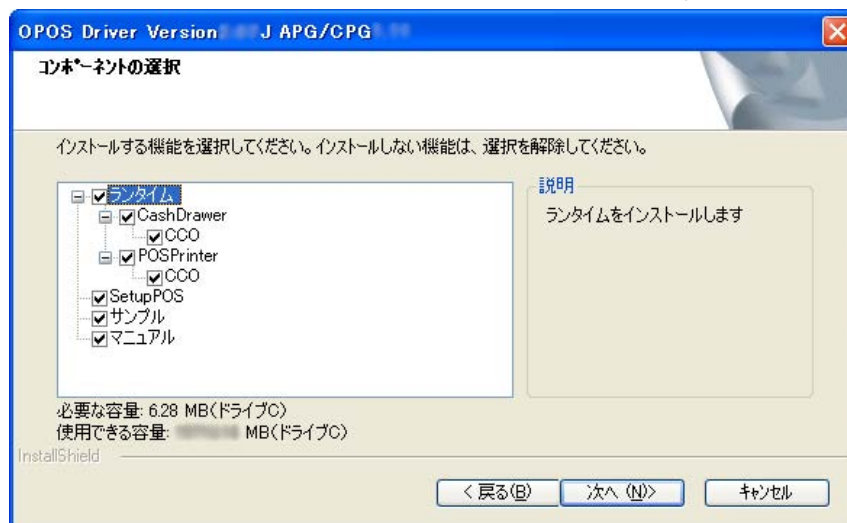


登録する CO を選択します。ここで登録された CO は全デバイスにおいて有効になります。決定しましたら、[次へ] ボタンを選択してください。

前のダイアログに戻りたい場合は、[戻る] ボタンを選択してください。

インストールを終了したい場合は、[キャンセル] ボタンを選択してください。

「コンポーネントの選択」ダイアログが表示されます。



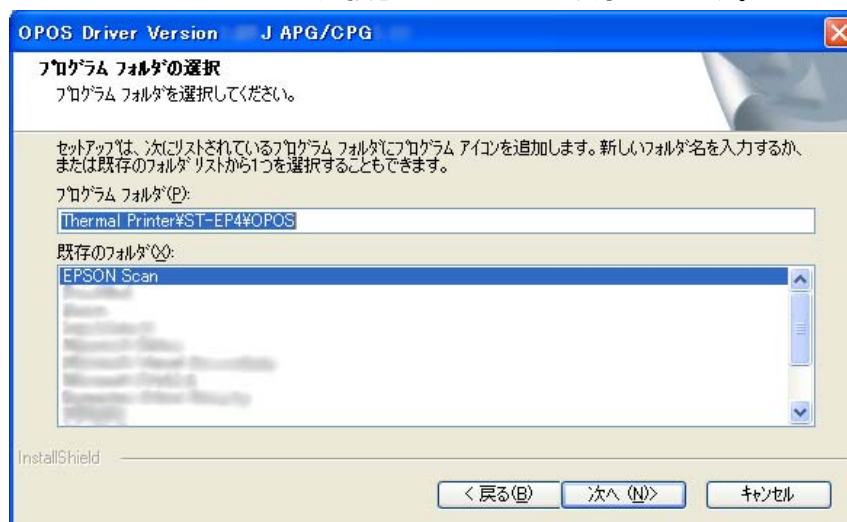
必要なコンポーネントを選択してください。

次のダイアログに進まれる場合は、[次へ] ボタンを選択してください。

前のダイアログに戻りたい場合は、[戻る] ボタンを選択してください。

インストールを終了したい場合は、[キャンセル] ボタンを選択してください。

「プログラムフォルダの選択」ダイアログが表示されます。



あらかじめ、決められているフォルダ名が表示されています。REG ファイルが指定されている場合には、REG ファイルより参照されます。

通常は、変更せずにご使用ください。フォルダ名の変更や、既存のフォルダを選択することもできますが、既存のフォルダを使用される場合には、そのフォルダの特性を理解した上で選択してください。

フォルダはかならず COMMON 特性になります。

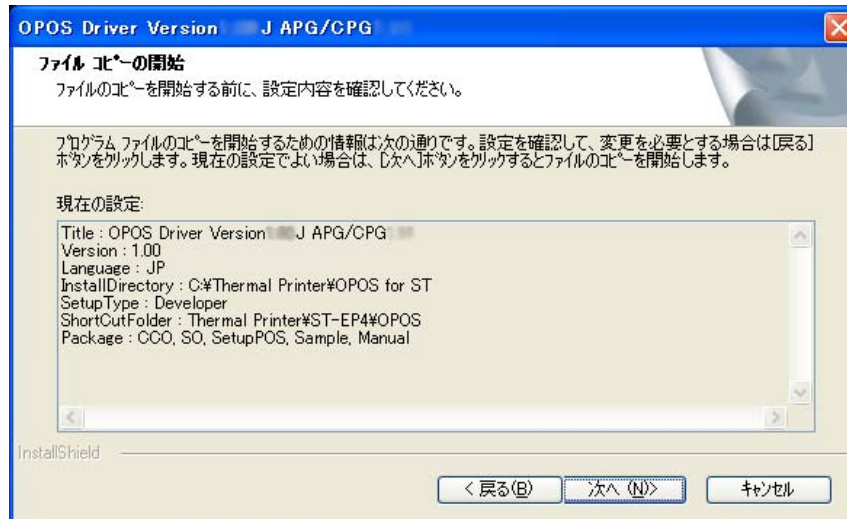
次のダイアログに進まれる場合は、[次へ] ボタンを選択してください。

前のダイアログに戻りたい場合は、[戻る] ボタンを選択してください。

[戻る] ボタンを選択した場合は、設定された内容は破棄されます。

インストールを終了したい場合は、[キャンセル] ボタンを選択してください。

「ファイルコピーの開始」ダイアログが表示されます。



ここでは、現在の設定情報が表示されます。内容を確認されましたら、[次へ] ボタンを選択してください。

前のダイアログに戻りたい場合は、[戻る] ボタンを選択してください。

インストールを終了したい場合は、[キャンセル] ボタンを選択してください。

「使用するポートの選択」ダイアログが表示されます。

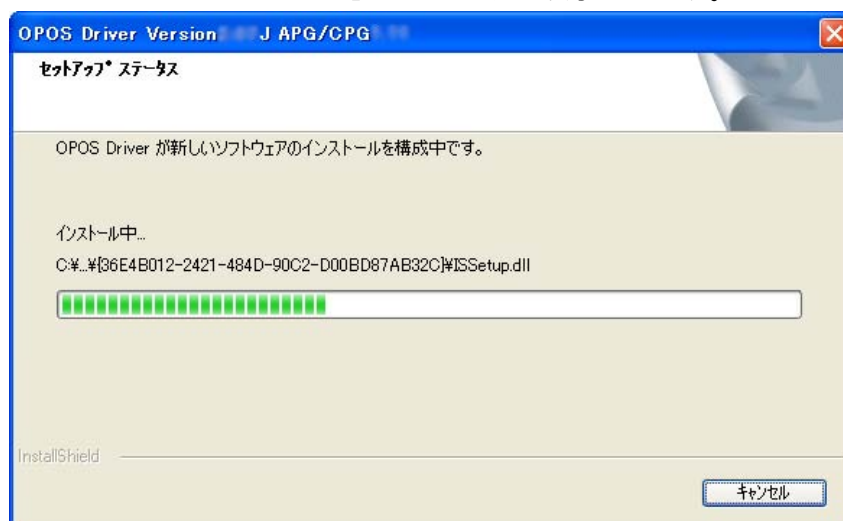


使用するポートを選択します。

USBポートを選択した場合、RP1USBドライバをインストールします。

インストールを終了したい場合は、[キャンセル]ボタンを選択してください。

「セットアップステータス」ダイアログが表示されます。



インストール処理の進行状況を表示します。

ここでは[キャンセル]ボタンが有効になっていますが、特別な理由がない限りは途中で[キャンセル]ボタンを押さないでください。処理の途中で[キャンセル]ボタンが押された場合、その後の動作は保証されません。必ず再インストールを行ってください。

また、このときにバージョンアップのために必要な情報の更新を行います。

すべてが処理されるまでには、数十秒から数分かかります。しばらくお待ちください。

すべての処理が終了すると、「セットアップの完了」ダイアログが表示されます。

また、インストールした OPOS Driver に関する情報が記載されたリリースノートを表示するかどうかをチェックボックスで選択することができます。必ず、お読みください。

インストールにより、システムファイルが更新された場合には、システムの再起動を要求されることがあります。この場合には、その時点で再起動を行うか、後から再起動を行うかを選択し、実行してください。

なお、システムの再起動の要求で、後から再起動を行うように選択した場合は、必ずインストール終了後にシステムを再起動してください。再起動を行っていない環境での動作は一切保証されません。

インストールの完了後に、SetupPOS ユーティリティが自動的に起動します。

「OPOS Driver マニュアル ユーザーズ マニュアル Installer/SetupPOS/RP1USB」の「第 5 章 SetupPOS ユーティリティ」に記載されている仕様に従い、設定を確認してください。

なお、システムの再起動を行った場合は、SetupPOS ユーティリティは自動的に起動されませんので、スタートメニューから SetupPOS ユーティリティの起動を行ってください。

2.3.2 上書きインストールする場合

上書きインストールでは、インストール先の指定、プログラムフォルダの指定がそのまま使用されます。変更することはできません。

新しいバージョンをインストールしようとするアドインインストールが起動します。その際、既にインストールされているデバイス、およびファイルのみが上書きインストールされます。

< インストール手順 >

ST-EP4_OPOS_J.exe を実行してください。

この時、他のプログラムはすべて終了させてください。インストールに失敗する場合があります。

起動するまでに十数秒かかりますので、しばらくお待ちください。

既に導入されているモジュールと、パッケージに含まれるモジュールとの比較を行います。問題が発生する可能性がある場合は、「問い合わせ」ダイアログを表示して、その概要を通知します。

「ようこそ」ダイアログが表示されます。



内容をお読みいただき、了解されましたら、[次へ] ボタンを選択してください。

インストールを終了したい場合は、[キャンセル] ボタンを選択してください。

「情報」ダイアログが表示されます。



既にインストールされている OPOS Driver の情報が表示されます。内容を確認していただき、問題がなければ、[次へ] ボタンを選択してください。

前のダイアログに戻りたい場合は、[戻る] ボタンを選択してください。

インストールを終了したい場合は、[キャンセル] ボタンを選択してください。

「使用許諾契約」ダイアログが表示されます。

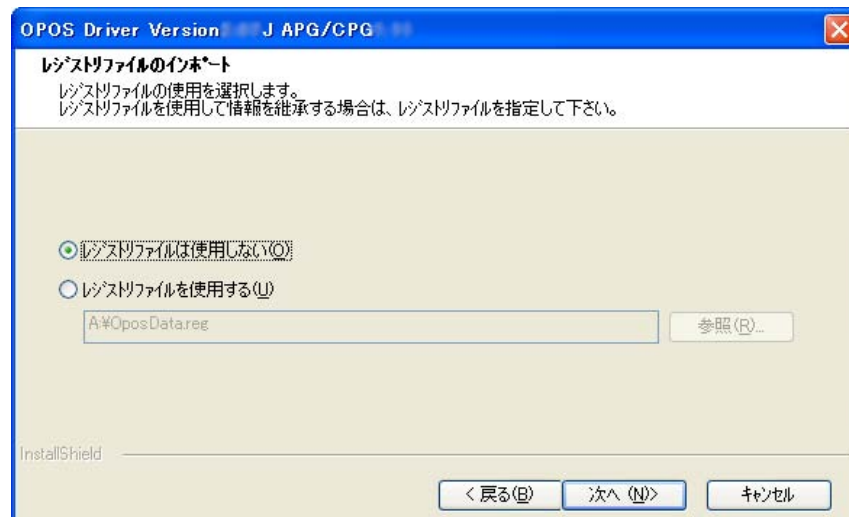


OPOS Driver をインストールするには、表示されている契約に同意していただく必要があります。記載されている内容をお読みください。

同意される場合は、「使用許諾契約の全条項に同意します」を選択してください。[次へ] ボタンが有効になりますので、[次へ] ボタンを選択してください。

同意されない場合は、「使用許諾契約の条項に同意しません」を選択した後に [キャンセル] ボタンを選択してください。インストールを終了します。前のダイアログに戻りたい場合は、[戻る] ボタンを選択してください。

「レジストリファイルのインポート」ダイアログが表示されます。



REG ファイルを使用しない場合には、「レジストリファイルは使用しない」を

選択し、[次へ] ボタンを選択してください。

REG ファイルを使用する場合には、「レジストリファイルを使用する」を選択してください。選択すると、テキストボックスが有効になりますので使用する REG ファイルをフルパス指定で入力し、[次へ] ボタンを選択してください。
[参照] ボタンを選択してフォルダを指定することも可能です。

REG ファイルとは、OPOS Driver に関する情報を復元するためのファイルです。SetupPOS ユーティリティを使用して作成してください。

不正な REG ファイルが選択された場合には、エラーメッセージが表示されて、次のダイアログボックスに移ることはできません。エラーメッセージに従い、REG ファイルが正しいかどうかを確認してください。

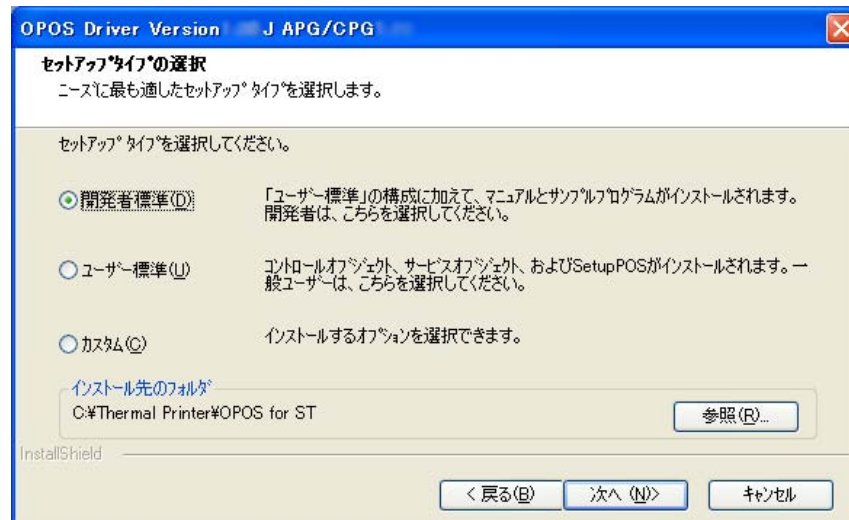
REG ファイルが正しく設定されると、これ以降の情報は REG ファイルから参照されます。

上書きインストール時には、前回のインストール情報ではなく、REG ファイルの情報が優先されます。

前のダイアログに戻りたい場合は、[戻る] ボタンを選択してください。

インストールを終了したい場合は、[キャンセル] ボタンを選択してください。

「セットアップタイプの選択」ダイアログが表示されます。



インストールするセットアップタイプを選択してください。セットアップタイプには、「開発者標準」、「ユーザー標準」、「カスタム」があります。

各タイプの内容は、以下のとおりです。

- ・開発者標準

コンポーネント：

プログラムのフルインストール
マニュアル
サンプルプログラム

CO :

<上書きインストールする場合> 既にインストールされている内容
に従う

・ユーザー標準

コンポーネント :

プログラムのフルインストール

CO :

<上書きインストールする場合> 既にインストールされている内容
に従う

・カスタム

インストールするコンポーネントを選択します。

「開発者標準」、「ユーザー標準」を選択した場合 :

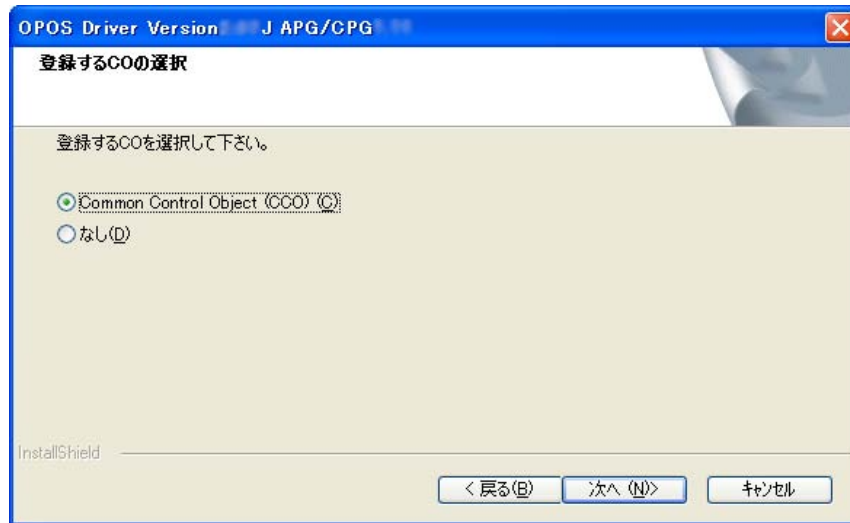
[ファイルコピーの開始] 画面へ進みます。 へ

「カスタム」を選択した場合 :

ベース、マイナーバージョンを上書きする場合は、[コンポーネントの
選択] 画面へ進みます。 へ

SP バージョンを上書きする場合は、[ファイルコピーの開始] 画面へ
進みます。 へ

「登録する CO の選択」ダイアログが表示されます。



登録する CO を選択します。ここで登録された CO は全デバイスにおいて有効になります。決定しましたら、[次へ] ボタンを選択してください。

前のダイアログに戻りたい場合は、[戻る] ボタンを選択してください。

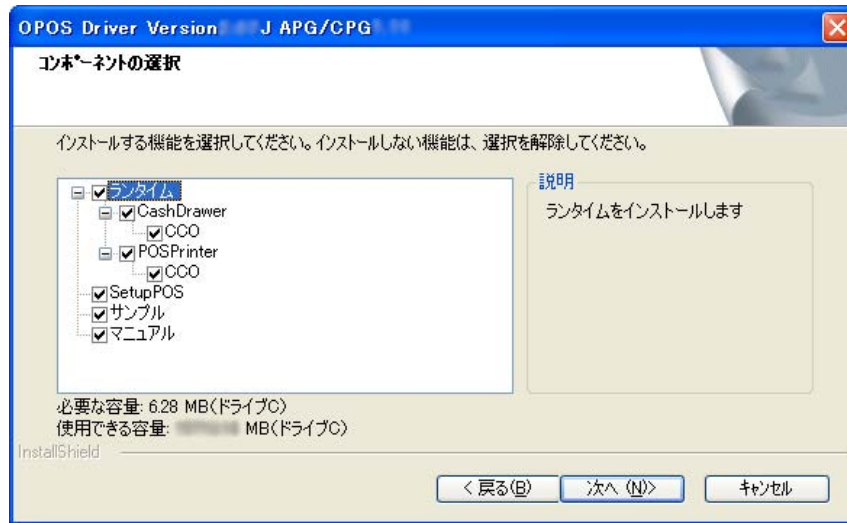
インストールを終了したい場合は、[キャンセル] ボタンを選択してください。

ベース、またはマイナーバージョンを上書きする場合は、[コンポーネントの選択] 画面へ進みます。 へ

SP バージョンを上書きする場合は [ファイルコピーの開始] 画面へ進みます。

へ

「コンポーネントの選択」ダイアログが表示されます。



必要なコンポーネントを選択してください。

次のダイアログに進まれる場合は、[次へ] ボタンを選択してください。

前のダイアログに戻りたい場合は、[戻る] ボタンを選択してください。

インストールを終了したい場合は、[キャンセル] ボタンを選択してください。

「ファイルコピーの開始」ダイアログが表示されます。



ここでは、現在の設定情報が表示されます。内容を確認されましたら、[次へ] ボタンを選択してください。

前のダイアログに戻りたい場合は、[戻る] ボタンを選択してください。

インストールを終了したい場合は、[キャンセル] ボタンを選択してください。

「登録するポートの選択」ダイアログが表示されます。



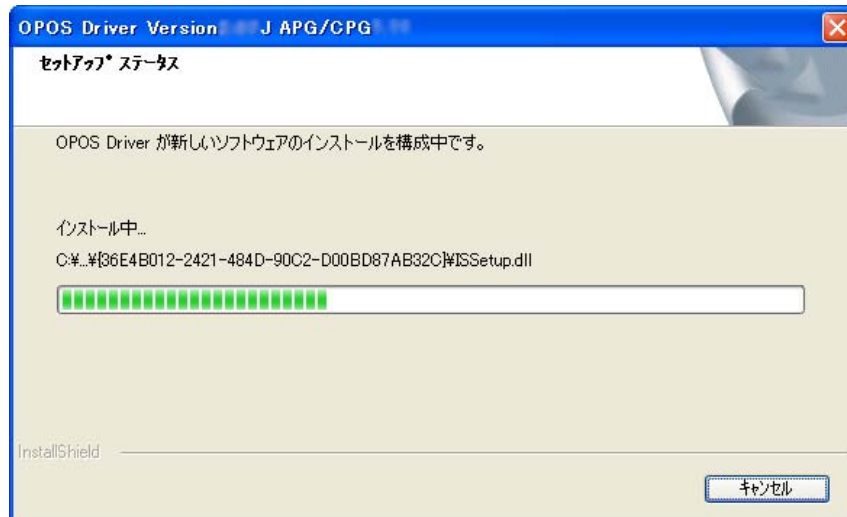
使用するポートを選択します。

USBポートを選択した場合は、RP1USBドライバがインストールされます。

前のダイアログに戻りたい場合は、[戻る]ボタンを選択してください。

インストールを終了したい場合は、[キャンセル]ボタンを選択してください。

「セットアップステータス」ダイアログが表示されます。



インストール処理の進行状況を表示します。

ここでは[キャンセル]ボタンが有効になっていますが、特別な理由がない限りは途中で[キャンセル]ボタンを押さないでください。処理の途中で[キャンセル]ボタンが押された場合、その後の動作は保証されません。必ず再インストールを行ってください。また、このときにバージョンアップのために必要

な情報の更新を行います。すべてが処理されるまでには、数十秒から数分かかります。しばらくお待ちください。

すべての処理が終了すると、「InstallShield Wizard の完了」ダイアログが表示されます。



また、インストールした OPOS Driver に関する情報が記載されたリリースノートを表示するかどうかをチェックボックスで選択することができます。必ず、お読みください。

インストールにより、システムファイルが更新された場合には、システムの再起動を要求されることがあります。この場合には、その時点で再起動を行うか、後から再起動を行うかを選択し、実行してください。

なお、システムの再起動の要求で、後から再起動を行うように選択した場合は、必ずインストール終了後にシステムを再起動してください。再起動を行っていない環境での動作は一切保証されません。

インストールの完了後に、SetupPOS ユーティリティが自動的に起動します。「OPOS Driver ADK マニュアル ユーザーズ マニュアル Installer/SetupPOS/RP1USB」の「第5章 SetupPOS ユーティリティ」に記載されている仕様に従い、設定を確認してください。

なお、システムの再起動を行った場合は、SetupPOS ユーティリティは自動的に起動されませんので、スタートメニューから SetupPOS ユーティリティの起動を行ってください。

2.4 インストールされるファイル

インストールが正常に終了すると、下記のファイルがインストールされます。

- プログラムファイル

インストール先フォルダの下に展開されます。CO、SO、各種ユーティリティ、デバイス情報ファイルが該当します。

インストール時に、インストールモジュールの選択でプログラムファイルを指定すると、これらがインストールされます。

- インクルードファイル

インストール先フォルダの Include フォルダに展開されます。OPOS に必要な C++用ヘッダファイル、VB 用ヘッダファイルが該当します。インストール時に、インストールモジュールの選択でプログラムファイルを指定すると、これらがインストールされます。

- サンプル

インストール先フォルダの Sample フォルダに展開されます。VC++用、VB 用のサンプルプログラムが該当します。それぞれ、デバイスごとにフォルダが作成され、ファイルがコピーされます。

インストール時に、インストールモジュールの選択でサンプルを指定すると、これらがインストールされます。

Windows XP, Windows Vista 以降でサンプルプログラムを使用する場合は、Administrator 権限で実行してください。

- マニュアル

インストール先フォルダの Manual フォルダに展開されます。「OPOS Driver マニュアル ユーザーズマニュアル Installer/SetupPOS/RP1USB」と、「OPOS Driver マニュアル アプリケーション開発ガイド」の各種が該当します。

インストール時に、インストールモジュールの選択でマニュアルを指定すると、これらがインストールされます。

2.5 インストールの種類

インストールには、フルインストールとカスタムインストールがあります。
これらは、「インストールタイプの選択」ダイアログで選択することができます。

- フルインストール
サポートしているすべてのデバイスをインストールします。サポートされているデバイスにつきましては、インストールディスクに含まれていますリリースノート(SupportedDevicesList.txt)をお読みください。
- カスタムインストール
サポートしているすべてのデバイスの中からインストールしたいデバイスを選択します。選択できる単位はデバイスクラスです。「インストールタイプの選択」ダイアログで、カスタムインストールを選択すると、「コンポーネントの選択」ダイアログが表示されます。ここで表示されるのがインストールできるデバイスの一覧です。
インストールしたいデバイスのみをチェックしてください。

2.6 COの登録

OPOS Driver では、CCO をインストール、および登録することができます。さらに、双方とも登録しないを選択することにより、他社の CO をそのまま使用することもできます。

このように複数の CO を使用される場合は、以下の注意が必要です。

(VB でアプリケーションを作成する場合)

VB のコンポーネントの追加でコントロールをフォームに貼り付ける

この場合は、コンポーネントダイアログボックスに CO のタイプライブラリに適用される文字列が表示されます。

この文字列は個別のものであるため、実際に使用したい CO を選択することが可能です。複数の CO を登録されている場合は、使用したい CO をコンポーネント一覧から選択してください。

Create Object でプログラム ID を指定して CO を作成する

この場合は、CO のプログラム ID を指定します。

プログラム ID は、OPOS の仕様で決まっている文字列です。

例えば、POSPrinter の CO ならば、"OPOS.POSPrinter"です。

同じデバイスクラスの CO が複数登録されている場合は、後から登録された CO が作成されます。

この方法を利用される場合には、CO の登録の順序にも注意を払わなければなり

ません。

WithEvent を用いて CO を作成する

この場合は、as Object とすることができませんので、as Class Name とする必要があります。

CO の Class Name は同じ場合もありますし、異なる場合もあります。

WithEvent を用いて変数を宣言する前に、の方法でコンポーネントを選択しているため、コンポーネント ダイアログ ボックスで選択したコンポーネントが使用されます。

2.6.1 CCOの更新方法

本製品に同梱されている CCO は、リリース時点での最新版です。これ以降に更新された CCO については、以下の手順で対応してください。

<手順>

CCOのインストーラを、下記のウェブサイトよりダウンロードします。

<http://www.monroeecs.com/>

ダウンロードした CCO のインストーラを実行して、インストールします。

<注意事項>

- CCO の更新を行った後に OPOS Driver のインストールを実行した場合は、CCO は古いもの（同梱されているもの）になります。
上記の手順に従って、再度、CCO の更新を行ってください。
- OPOS Driver のアンインストールを実行した場合は、更新した CCO もアンインストールされます。
上記の手順に従って、再度、CCO の更新を行ってください。

2.7 レジストリファイルを使用したインストール方法

いずれかの PC で作成した環境を別の PC で復元したい場合に使用します。SetupPOS ユーティリティで各種設定を行うと、レジストリに情報を保存します。SetupPOS ユーティリティには、レジストリの必要な情報のみをファイルに格納する機能があります。このファイルをインストーラで指定することにより、同じ環境を復元することが可能です。

この機能を利用する場合は、以下の手順で行ってください。

ここでは、作成元の環境をメイン PC、復元したい環境をターゲット PC と称して説明します。

<手順>

メイン PC に OPOS Driver をインストールした後、SetupPOS ユーティリティを使用して、各種情報や、各種デバイスの設定を行います。その後、SetupPOS ユーティリティを使用してレジストリの保存を行ってください。その際は、下記の点に注意してファイルを作成してください。

- ・「全体を保存」を指定する。

ポートの情報ファイル (pcs.properties) を下記のフォルダから取得して、レジストリファイルと同じ場所に保存します。

<(システムドライブ):¥Thermal Printer¥portcommunicationservice>

ターゲット PC にインストールを行います。

この時には、下記の 2 つの方法があります。環境に合わせて選択してください。

- ・通常のインストールの方法でインストールする。
- ・サイレントインストールの方法でインストールする。

通常のインストールの方法でインストールする場合には、本マニュアルの「2.3 インストール操作」を参照し、手順に沿って行ってください。

サイレントインストールの方法を使用される場合は、本マニュアルの「2.9 サイレントインストール」を参照してください。

インストール時には、手順 で保存した REG ファイルを指定してください。

<制限事項>

- REG ファイルは、必ず、SetupPOS ユーティリティを使用して作成してください。
- REG ファイルには、これからインストールしようとするバージョンと同じバージョンの情報が格納されているか、すでにインストールされている環境と同じ情報が入っている必要があります。

以下のような状況では、正しいインストールができません。

- ・システムドライブが異なっている場合
(例：コピー元が C ドライブ、コピー先が D ドライブ)
- ・物理ポートの構成が異なる場合
(例：コピー元が COM1, COM2、コピー先が COM1 のみ)
- ・OS が異なる場合
(例：コピー元が 32bit、コピー先が 64bit)
- ユーザーインターフェイスを使用して REG ファイルを指定する場合は、インストールするコンポーネントの指定は、ユーザーインターフェイスに従って、再度入力を行ってください。コンポーネントの指定は、自動で設定されません。
- REG ファイルを使用した場合、情報の継承はできません。

- ポート環境を移行するときは、使用しているアプリケーションをすべて終了させてから OPOS のインストールを行ってください。

2.8 アドイン機能（サービスパック）について

アドイン機能とは、アップデートに必要なもののみをパッケージしたサービスパックをインストールする機能です。サービスパックには、ベースとなるバージョンが必ず存在します（ここではベースバージョンと呼びます）。

ベースバージョンをリリース以降、デバイス追加等、何らかのアップデートが必要になった場合、サービスパックが提供されることがあります。最新サービスパックに関しては、メーカーにお問い合わせください。

サービスパックをインストールすると、サービスパックをインストールする前のレジストリ情報がファイルとしてインストール先に保存されます（ファイル名："OposReg.reg"）。

この REG ファイルは、ターゲット PC などにベースバージョンのサイレントインストールを行う時に利用してください。

古いバージョンの OPOS Driver に新しいバージョンを上書きインストールする場合にも、この機能が使用されます。これは、既にインストールされている全てのデバイス、およびファイルをアップデートするためです。

<手順>

サービスパックディスク内にある ST-EP4_OPOS_J.exe を実行してください。

この時、他のプログラムはすべて終了させてください。

そうでなければ、インストールに失敗する場合があります。

起動するまでに十数秒かかりますので、しばらくお待ちください。

インストール前のメッセージの表示

インストール前に、既にインストールされているデバイス、またはファイルについてメッセージが表示されます。

サービスパックの場合：

サービスパックに含まれているデバイスが、インストールされていない場合は警告のメッセージが出ます。これは、一度サービスパックをインストールしてしまうとデバイスの追加ができなくなるためです。（下記の<制限事項>を参照）

新しいバージョンを上書きする場合：

新しいバージョンに含まれているデバイス、及びファイルがインストールされていない場合、質問メッセージが表示されます。メッセージに記述されていないデバイス、またはファイルは全て上書きされます。

他のファイルをインストールしたい場合は、アップデート後に再度インストールを実行してください。

それでもよい場合は、[はい] ボタンを選択してください。[いいえ] ボタンを選択した場合はインストールを中止します。

「ようこそ」ダイアログが表示されます。

内容をお読みいただき、了解されましたら、[次へ] ボタンを選択してください。

「使用許諾契約」ダイアログが表示されます。

OPOS Driver をインストールするには、表示されている契約に同意していただく必要があります。記載されている内容をお読みください。

同意される場合は、「使用許諾契約の全条項に同意します」を選択してください。[次へ] ボタンが有効になります。[次へ] ボタンを選択してください。

同意されない場合は、「使用許諾契約の条項に同意しません」を選択した後に、[キャンセル] ボタンを選択してください。インストールを終了します。

前のダイアログに戻りたい場合は、[戻る] ボタンを選択してください。

「情報一覧」ダイアログが表示されます。

既にインストールされている OPOS Driver の情報が表示されます。内容を確認していただき、問題がなければ [次へ] ボタンを選択してください。

「レジストリファイルのインポート」ダイアログが表示されます。

REG ファイルを使用しない場合には、「レジストリファイルは使用しない」を選択し、[次へ] ボタンを選択してください。

REG ファイルを使用する場合には、「レジストリファイルを使用する」を選択してください。選択するとテキストボックスが有効になりますので、使用する REG ファイルをフルパス指定で入力し（デフォルトではフロッピードライブに在り処を示す“A:¥OPOSDATA.reg”が入力されています）、[次へ] ボタンを選択してください。[参照] ボタンを選択してフォルダを指定することも可能です。

REG ファイルとは、OPOS Driver に関する情報を復元するためのファイルです。SetupPOS ユーティリティを使用して作成してください。

不正な REG ファイルが選択された場合には、エラーメッセージが表示され次のダイアログボックスに移ることはできません。エラーメッセージに従い、REG ファイルが正しいかどうかを確認してください。REG ファイルが正しく設定されると、これ以降の情報は REG ファイルから参照されます。上書きインストール時には、前回のインストール情報ではなく、REG ファイルの情報が優先されます。

前のダイアログに戻りたい場合は、[戻る] ボタンを選択してください。

「インストールモジュールの選択」ダイアログが表示されます。

インストールするモジュールを選択（チェック）してください。モジュールには「プログラムファイル（OPOS ADK）」、「サンプル」と「マニュアル」があります。既にインストールされているモジュールは選択できません。

決定しましたら、[次へ] ボタンを選択してください。

前のダイアログに戻りたい場合は、[戻る] ボタンを選択してください。

「ファイルコピーの開始」ダイアログが表示されます。

ここでは、今まで設定した情報が表示されます。内容を確認されましたら、[次へ] ボタンを選択してください。

前のダイアログに戻りたい場合は、[戻る] ボタンを選択してください。

ファイルのコピー、DLL,OCX の登録、レジストリへの設定を開始します。

ここでは [キャンセル] ボタンが有効になっていますが、特別な理由がない限り途中でキャンセルを押さないでください。処理の途中で [キャンセル] ボタンが押された場合、その後の動作は保証されません。

必ず、再インストールを行ってください。

また、このときにバージョンアップのために必要な情報の更新を行います。

すべてが処理されるまでには、数十秒から数分かかります。しばらくお待ちください。

すべての処理が終了すると、「セットアップの完了」ダイアログが表示されます。インストールした OPOS Driver に関する情報が記載されているリリースノートを表示するかどうかをチェックボックスで選択することができます。必ずお読みください。

インストールが完了しました。SetupPOS ユーティリティが自動的に起動します。「OPOS Driver マニュアル ユーザーズ マニュアル Installer/SetupPOS/RP1USB」の「第 4 章 SetupPOS ユーティリティ」に記載されている仕様に従い、設定を確認してください。

なお、システムの再起動を行った場合は、SetupPOS ユーティリティは自動的に起動されませんので、スタートメニューから SetupPOS ユーティリティの起動を行ってください。

< 制限事項 >

- サービスパックをインストールする場合は、必ず、先にベースバージョンをインストールしてください。
- サービスパックのバージョンが大きいものであれば、順序に関係なくインストールすることができます。

例えば、ベースバージョンにサービスパックバージョン 3 をアドインすること

が可能です。特に、サービスパックバージョン 1 や 2 をインストールする必要はありません。

- 現在インストールされているサービスパックのバージョンより古いバージョンをインストールすることはできません。

例えば、サービスパックバージョン 3 がインストールされている状態で、サービスパックバージョン 1 や 2 を後からインストールすることはできません。

- サービスパックをインストールすると、ベースバージョンは上書インストールできなくなります。

また、サービスパックのみのアンインストールはできません。つまり、サービスパックをインストールしてしまうと、デバイスの追加などができなくなります。サービスパックを導入する前には、必ず、ベースバージョンをインストールし直すか、上書インストールするなどして、使用するデバイスをインストールしてからサービスパックの導入を行ってください。

2.9 サイレントインストール

ユーザーインターフェイスを使用せずにインストールをすることができます。これをサイレントインストールと呼びます。この機能は、本マニュアルの「2.7 レジストリファイルを使用したインストール方法」で説明したREGファイルを使用しますので、そちらを参照してください。

この機能は主に、ターゲットPCへのインストールに使用することができます。メインPCへのインストールは、通常のユーザーインターフェイスを使用したインストールをご使用ください。

ターゲットPC、メインPCにつきましては、本マニュアルの「2.7 レジストリファイルを使用したインストール方法」を参照してください。

サイレントインストールを行った場合は、REG ファイルをもとにメイン PC と同じ情報が復元されます。

サイレントインストールでは、マニュアル、サンプルプログラムのインストールはできません。この機能を利用する場合は、下記の手順で行ってください。

<手順>

メイン PC に OPOS Driver をインストールした後、SetupPOS ユーティリティを使用して各種情報や各種デバイスの設定を行います。その後、SetupPOS ユーティリティを使用してレジストリの保存を行ってください。

記録ファイルを作成します。

インストール動作を記録するためのファイルを作成します。

以下のコマンドを実行し、インストールを行います。

例) "Full Path¥ST-EP4_OPOS_J.exe" /r /f1"c:¥Temp¥setup.iss

インストール終了後、Windows フォルダの下に作成される " Setup.iss " ファイルに動作が記録されます。

SetupPOS の[レジストリの保存]で、OPOS のレジストリ情報を保存します。

ここでは、[全体を保存] ボタンを選択してください。

ポートの情報ファイル (pcs.properties) を下記のフォルダから取得して、レジストリファイルと同じ場所に保存します。

<(システムドライブ):¥ Thermal Printer¥portcommunicationservice >

で作成した記録ファイルを、"/f1"オプションで指定してください。

例) "Full Path¥ST-EP4_OPOS_J.exe" /s /f1"c:¥Temp¥setup.iss"

/a"a:¥OposData.reg"

コマンドラインに以下のパラメータを付加することで、サイレントインストールに機能を追加します。

以下のパラメータは同時に使用することも可能です。同時に使用する場合は、付加したパラメータに続けて、付加したいパラメータをコマンドラインへ入力してください。なお、各パラメータは大文字と小文字を区別しません。

< 設定を記録したファイルを作成する >

付加するパラメータ: "/r"

使用例) : "Full Path¥ST-EP4_OPOS_J.exe" /r /f1"c:¥Temp¥setup.iss

< サイレントインストールを示す >

付加するパラメータ: "/s"

使用例) : "Full Path¥ST-EP4_OPOS_J.exe" /s /a"Full Path¥
OposData.reg" /f1"c:¥Temp¥setup.iss

< 代替の設定を記録したファイル名とパス名を指定する >

付加するパラメータ: "/f1"

使用例) : "Full Path¥ST-EP4_OPOS_J.exe" /s /f1"C:¥Temp¥Setup.iss"
/a"Full Path¥OposData.reg"

< 代替ログファイル名とパス名を指定する >

付加するパラメータ: "/f2"

使用例) : "Full Path¥ST-EP4_OPOS_J.exe" /s /f2"C:¥Setup.log" /a"Full
Path¥OposData.reg" /f1"c:¥Temp¥setup.iss

< レジストリを付加することを示す >

付加するパラメータ : "/a"

使用例) : "Full Path¥ST-EP4_OPOS_J.exe" /s /a"Full Path¥OposData.reg"
/f1"c:¥Temp¥setup.iss

< サイレントインストール後、再起動する場合 >

付加するパラメータ : "/n"

使用例) : "Full Path¥ST-EP4_OPOS_J.exe" /s /a" Full Path¥OposReg.reg"
/n /f1"c:¥Temp¥setup.iss

- ・ 結果はログファイルに格納されます。

ログファイルはインストール先ディレクトリに Silence.log という名前で作成されます。エラーについても、すべてここで知ることができます。

ただし、インストールが完了するまではインストール先が確定しないため、Windows があるドライブのルート (例 : "C:¥") に作成されます。サイレントインストール終了後は、必ず、ログファイルでエラーが無いことを確認してください。

< Silence.log の見方 >

[SilenceMode Log]

[Silence Mode Log Start] : サイレント処理開始

[SilenceMode Log End] : サイレント処理終了

ERROR : : エラーメッセージ

WARNING : : ワーニングメッセージ

INFORMATION : : 情報

MESSAGE : : メッセージ

メッセージにつきましては、本マニュアルの「2.10 インストール時のメッセージ」に表記されているものと同様のものが格納されます。

Silence.log は一度作成されると、そこに結果が追加されていきますので、最新の結果は、最後のサイレント処理の開始以降部分を参照してください。

< 制限事項 >

- ・ サイレントインストールには必ず REG ファイルが必要です。
- ・ ベースバージョンで保存した REG ファイルはベースバージョンのサイレントインストールでのみ使用できます。サービスパックのインストールには使用で

きません。

- サービスパックをサイレントインストールする場合に、あらかじめ、そのサービスパックがインストールされた環境で REG ファイルを作成しておく必要があります。

つまり、サービスパックがインストールされた環境を、ターゲット PC にサイレントインストールで移す場合は、まずベースバージョン + ベースバージョン用 REG ファイル(サービスパックインストール時に自動的にインストール先に作成されます)でサイレントインストールし、続いて、サービスパック + サービスパック用 REG ファイルでサイレントインストールする必要があります。

例) サービスパックサイレントインストール手順

まず、OPOS Driver のサイレントインストールを行います。

例) "Full Path¥ST-EP4_OPOS_J.exe" /s /a"Full Path¥OposReg.reg"
/f1"c:¥Temp¥setup.iss

次に、サービスパックのサイレントインストールを行います。

例) "Full Path¥ST-EP4_OPOS_J.exe" /s /a"Full Path¥OposData.reg"
/f1"c:¥Temp¥setup.iss

上記の手順は、あらかじめ、保存しておいた"OposReg.reg"や"OposData.reg"の REG ファイルを使用した場合の例です。

- 使用する REG ファイルを作成した環境(メイン PC)が、RP1USB Driver を本インストーラでインストールしていた場合は、パラメータの有無に関わらず、インストールされた Driver のインストールを行います。
ターゲット PC に各 Driver をインストールしたくない場合は、各 Driver のインストールを行っていない PC で、REG ファイルを作成してください。

2.10 インストール時のメッセージ

各ダイアログ等で実行、設定される事項によってメッセージが表示される場合があります。その内容は、以下のとおりです。

2.10.1 起動時のメッセージ

動 作	エラーメッセージ
アドミニストレータ権限をもたないユーザーがインストールを行った場合 (サポート OS 共通)	ユーザーがアドミニストレータ権限を持っていません。
Install.ini ファイルが存在しない場合	Install.ini ファイルがカレントディレクトリに見つかりません。終了します。
Relnote.txt ファイルが存在しない場合	Relnote.txt ファイルがカレントディレクトリに見つかりません。終了します。
Install.ini ファイルの内容が不正であった場合	インストール用の設定ファイルが見つからないか、内容が改ざんされています。
レジストリ情報が壊れていた場合	レジストリ情報を読み込むことができませんでした。
新しい Version に、前のバージョンを上書きインストールしようとした場合	本バージョンよりも新しい OPOS が既にインストールされています。
上書きが禁止されている特別バージョンを上書きインストールしようとした場合	このバージョンは上書きインストールする事は出来ません。
上書きが禁止されている特別なバージョンがインストールされている環境に、上書きインストールしようとした場合	このバージョンの OPOS に上書きインストールする事は出来ません。
言語が違うバージョンが既にインストールされている場合	インストールされている OPOS の言語と本インストールの OPOS の言語が違います。インストールできません。

2.10.2 インストール動作中のメッセージ

動 作	エラーメッセージ
インストール先のディレクトリに、OPOS Driver をインストールする容量がない場合	OPOS をインストールする為に必要な空き容量が確保できません。
OPOS Driver でインストールするファイルを他のアプリケーションが使用している場合	対象のコンピュータ内のファイルが上書きできません。ファイルが使用中の可能性があります。全てのアプリケーションを終了して再度インストールを最初から行って下さい。
カスタムインストールで 1 つもコンポーネントがチェックされていない場合	コンポーネントがチェックされていません。
レジストリの情報に不正なデータがある場合	レジストリ情報に不正な結果が返ってきました。
インストーラ内部で保持している DLL のロードに失敗した場合	指定したファイルが検出できません。正しいインストールディスクを用意し、最初からインストールを行って下さい。
インストールされている CO のタイプと異なるタイプを選択した場合	選択されたタイプは、既にインストールされているタイプと異なります。 このタイプを続けてインストールする場合、制約上、既にインストールされているタイプを自動的に登録解除し、使用できなくします。
アンインストールの情報のレジストリ登録に失敗した場合	アンインストール情報の登録に失敗しました。アンインストーラが正しく動作しない可能性があります。
既に登録されているデバイス情報、指定されているレジストリファイルに、本バージョンではサポートしない情報が含まれている場合	既に登録されているデバイス情報、指定されているレジストリファイルには、本バージョンではサポートしない情報が含まれています。 登録したまま動作させた場合、予期しない動作になる場合があるため、デバイス情報を削除する必要があります。 デバイス情報を削除しますか？ 「はい」をクリックすると、インストーラを継続しデバイス情報を削除します。

2.10.3 インストール後のドライバインストール時のメッセージ

動 作	エラーメッセージ
実行中の OS に対するドライバが存在しない場合	現在使用中の OS はサポート外です。

2.10.4 サイレントモード指定時のメッセージ

動 作	エラーメッセージ
サイレンスインストールのコマンドラインパラメータに不正な値が指定された場合	コマンドラインパラメータの書式が違います。以下のように定義してください。 setup /a"A:¥¥OposData.reg"
コマンドラインで存在しないレジストリファイルが指定された場合	コマンドラインパラメータで指定されたレジストリファイルが見つかりません。
サイレンスのログファイルが作成できない場合	サイレンスログファイルの作成に失敗しました。
サイレンスログファイルを開くことができなかった場合	サイレンスログファイルをオープンできませんでした。
パラメータにサポートしていないレジストリファイルが指定された場合	コマンドラインパラメータで指定されたレジストリファイルが見つかりません。

2.10.5 レジストリファイル関連のメッセージ

動 作	エラーメッセージ
レジストリファイルのインポート、または起動時のパラメータの指定で、インストールされていないバージョンのレジストリファイルを指定された場合	レジストリファイルに記録されているバージョンが、本インストールのバージョンと一致しません。
レジストリファイルのインポート、または起動時のパラメータの指定で、言語が異なるバージョンで作成されたレジストリファイルが指定された場合	レジストリに記録されている OPOS の言語が、本インストールの言語と一致しません。
サポートされていないバージョンで作成されたレジストリファイルが指定された場合	本インストールでサポートできないバージョンの情報がレジストリファイルに含まれています。このレジストリファイルは使用できません。
レジストリファイルの内部処理が何らかの理由により上手く動作しない場合	選択されたレジストリファイルのコピーの作成に失敗しました。レジストリファイルの選択は無効になります。
レジストリファイルのインポート、または起動時のパラメータの指定で、OS が異なるバージョンで作成されたレジストリファイルが指定された場合	レジストリに記録されている OPOS の言語が、本インストールの言語と一致しません。

2.10.6 アドインインストールのメッセージ

動 作	エラーメッセージ
ベースバージョンと言語が違うアドインサービスパックをインストールしようとした場合	インストールされている OPOS の言語と本インストールの OPOS の言語が違います。 インストールできません。
アドインサービスパックのベースバージョンでないバージョンがインストールされている状態で、サービスパックをインストールしようとした場合	インストールされているバージョンがサポート対象ではありません。
アドインサービスパックがインストールされている状態でベースバージョンをインストールしようとした場合	この OPOS には既にサービスパックがインストールされています。
アドインサービスパックのベースバージョンがインストールされていない状態で、サービスパックのみをインストールしようとした場合	サービスパック対応バージョンの OPOS がインストールされていません。
アドインサービスパックに含まれているデバイス及びファイルがベースバージョンでインストールされていない場合	SPxに含まれている下記デバイス、およびファイルがインストールされていません。 ---- ---- SPxをインストール後は、これらのファイルをインストールすることはできません。 必要があれば、上記ファイルをインストール後に再度ServicePackのインストールを実行してください。 継続してよろしいですか？
フルパッケージに含まれているデバイス及びファイルがインストールされていない場合	OPOS Driverに含まれている下記デバイス、およびファイルがインストールされていません。 ---- ---- 既にインストールされているファイルのみアップデートします。 他のファイルをインストールしたい場合は、セットアップタイプ画面で"カスタム"を選択し、インストールするコンポーネントを追加してください。 継続してよろしいですか？
統合パッケージが既にインストールされていて、同バージョンあるいは下位バージョンの単体パッケージをインストールしようとした場合	本バージョンのファイルは既にインストールされています。 インストールする必要はありません。

2.11 インストール時の注意

- バージョン、言語（US 版、日本語版）の相違する OPOS Driver が既にインストールされている場合は、上書きインストールをすることはできません。
- バージョン（サービスパック含む）、言語（US 版、日本語版）が相違する OPOS Driver 上で格納したレジストリ情報ファイルを読み込むことはできません。
- REG ファイルのインポートで指定された REG ファイル情報に格納されているデバイス（SetupPOS ユーティリティで REG ファイルに格納した際にインストールされていたデバイス、または、登録されていたデバイス）は、必ずインストールしてください。これらが相違した場合の動作は保証されません。
- 何らかの理由により、インストールに失敗した場合、またはキャンセルした場合には、かならず再インストールを行ってください。インストールに失敗、キャンセルした状態でアンインストールを実行しても、完全に環境等が削除されない場合があります。
また、再インストール後でも動作が不安定な場合は、最初の失敗のために正常に登録できなかったことが考えられます。このような場合は、お手数ですが一度アンインストールしてから、再々度インストールをし直すことをお勧めします。
- USB のデバイスを使用する場合、インストール前に、あらかじめ、「RP1USB Driver」をインストールしてください。「RP1USB Driver」がインストールされていない場合、USB の OPOS 情報はインストールされません。
「RP1USB Driver」を使用される方は、必ず、「OPOS Driver マニュアル ユーザーズマニュアル Installer/SetupPOS/RP1USB」の「第 5 章 RP1USB Driver」をお読みください。
- インストールが完了すると、インストール先フォルダに RP1USB Driver のインストーラが格納されている「RP1USB」という名前のフォルダが作成されます。本インストーラで Driver をインストールしなかった場合でも、後からインストールしたい Driver のインストーラを実行することでインストールが可能です。ただし、Driver のサポート外となっている OS では、それらの Driver をインストールしないでください。サポート外の OS にインストールしたことで問題が発生しても、動作の保証はされません。

第3章 アンインストール

インストールした OPOS Driver をアンインストールする場合は、必ず、専用のアンインストーラを使用してください。

アンインストーラを実行する場合は、下記の方法で行ってください。

- Windows のコントロールパネルで「アプリケーションの追加と削除」(Windows XP)、または「プログラムのアンインストール」(Windows Vista 以降)を選択し、OPOS Driver ST-EP4 を選択する。

OPOS Driver 専用のアンインストーラが実行されます。

アンインストールを行う場合は、OPOS のファイルを使用しているアプリケーションはもちろんのこと、他のアプリケーションが動作していないことを必ず確認してください。

なお、使用するマシンの特権レベルを持ったユーザーでなければ、インストールプログラムを使用することができません。使用するマシンの特権レベルを持つユーザーにご相談ください。

3.1 アンインストール操作

前述で説明したいずれかの方法でアンインストーラを実行します。

「使用上の注意」ダイアログボックスが表示されます。

ここには、アンインストーラの対応バージョン、および使用上の注意が表示されています。アンインストールしようとするバージョンが含まれているかを確認してください。

続けて使用する場合は、[はい] ボタンを選択してください。

そのまま終了する場合は、[いいえ] ボタンを選択してください。

「ADK バージョンの選択」ダイアログが表示されます。

現在インストールされている OPOS Driver のバージョンがすべて表示されます。アンインストールしたいバージョンを選択してください。複数の選択はできません。

[選択されている ADK 構成を完全に削除する] チェックボックスをチェックしている場合は、フルアンインストールが行われます。チェックをはずすと削除するデバイスを選択することができます。

選択されましたら、[次へ] ボタンを選択してください。チェックしている場

合は へ移ります。

前のダイアログに戻りたい場合は、[戻る] ボタンを選択してください。

「削除するデバイスの選択」ダイアログが表示されます。

[削除候補デバイス] ウィンドウには、現在インストールされているデバイスが表示されます。削除するデバイスを選択し、[] ボタンを押してください。

[削除対象デバイス] ウィンドウにデバイスが移ります。再び戻す場合は、[] ボタンを押してください。[削除対象デバイス] ウィンドウから [削除候補デバイス] ウィンドウにデバイスが移ります。

[削除候補デバイス] ウィンドウの全デバイスを、[削除候補デバイス] ウィンドウに移したい場合は、[全て] ボタンを押してください。全デバイスが移ります。

選択されましたら、[次へ] ボタンを選択してください。

前のダイアログに戻りたい場合は、[戻る] ボタンを選択してください

「削除の確認」ダイアログが表示されます。

アンインストールに関する情報が記載されていますので、内容を確認してください。

[開始] ボタンを選択すると、アンインストールを開始します。

削除を開始せず、前のダイアログに戻りたい場合は、[戻る] ボタンを選択してください。

- アンインストール処理が開始されます。アンインストール状態を示すプログレスバーが表示されます。
- アンインストール処理が終了すると、終了を示すメッセージが表示されます。

3.2 アンインストールの種類

アンインストールには、フルアンインストールとカスタムアンインストールがあります。これらは、「ADK バージョンの選択」ダイアログの [選択されている ADK 構成を完全に削除する] チェックボックスで選択することができます。

- フルアンインストール
選択されたバージョンで登録したすべてのデバイスを削除することができます。
- カスタムアンインストール
選択されたバージョンで登録したすべてのデバイスの中からアンインストールしたいデバイスを選択します。「削除するデバイスの選択」ダイアログでデバイスを選択してください。指定できるデバイスの単位は、デバイスクラスごととなります。

3.3 サイレントアンインストール

ユーザーインターフェイスを使用せずにアンインストールをすることができます。
これをサイレントアンインストールと呼びます。
サイレントアンインストールを使用した場合は、フルアンインストールのみを行います。
コマンドラインより下記のように指定してください。

<手順>

記録ファイルを作成します。

アンインストール動作を記録するためのファイルを作成します。

以下のコマンドを実行し、アンインストールを行います。

例) "Full Path¥ST-EP4_OPOS_J.exe" /r /f1"c:¥Temp¥setup.iss

アンインストール終了後、Windows フォルダの下に作成される"Setup.iss"ファイルに動作が記録されます。

で作成した記録ファイルを用いて、サイレンスアンインストールを行います。

で作成した記録ファイルを、"/f1"オプションで指定してください。

例) "Full Path¥ST-EP4_OPOS_J.exe" /s /f1"c:¥Temp¥setup.iss

コマンドラインに以下のパラメータを付加することで、サイレントアンインストールに機能を追加します。

以下のパラメータは同時に使用することも可能です。

同時に使用する場合は、付加したパラメータに続けて、付加したいパラメータをコマンドラインへ入力してください。

なお、各パラメータは大文字と小文字を区別しません。

<サイレントアンインストールを示す>

付加するパラメータ: /s

例) "Full Path¥ST-EP4_OPOS_J.exe" /s /f1"c:¥Temp¥setup.iss

<サイレントアンインストール終了時にダイアログを表示しない>

付加するパラメータ: /m

例) "Full Path¥ST-EP4_OPOS_J.exe" /s /z"/m" /f1"c:¥Temp¥setup.iss

/m のパラメータを付加する場合は、/z を前に付けてください。

< 電子ジャーナルの SO が作成・使用するファイルを削除しない >

付加するパラメータ : /e

例) "Full Path¥ST-EP4_OPOS_J.exe" /s /z"/e" /f1"c:¥Temp¥setup.iss
/e のパラメータを付加する場合は、/z を前に付けてください。

< サイレントアンインストール終了時にダイアログを表示しない + 電子
ジャーナルの SO が作成・使用するファイルを削除しない >

付加するパラメータ : /m、/e

例) "Full Path¥ST-EP4_OPOS_J.exe" /s /z"/m /e"
/f1"c:¥Temp¥setup.iss
/m、/e のパラメータを付加する場合は、/z を前に付けてください。

< 強制アンインストール >

OPOS Driver を再インストールできない状況が発生した場合には、強制
アンインストールのオプションを使って問題を解決することができます。

付加するパラメータ : /z "uninstall"

例) "FullPath¥ST-EP4_OPOS_J.exe" /z"uninstall"
/f1"c:¥Temp¥setup.iss
完了後、OPOS Driver を再インストールするために、このパラメータを
付けずに再度インストーラを実行してください。
"/s"パラメータが付かないことにご注意ください。

3.4 アンインストール時のメッセージ

各ダイアログ等で実行、設定される事項によってメッセージが表示される場合があります。内容は、以下のとおりです。

3.4.1 アンインストーラで表示するメッセージ

動 作	エラーメッセージ
アドミニストレータ権限を持たないユーザーがアンインストールを行った場合	アドミニストレータ権限を持たないユーザーは、このアンインストーラを利用する事は出来ません。
OPOS がインストールされていない状態でアンインストーラが起動された場合	対象となる言語の OPOS がインストールされていません。
言語が違うバージョンのアンインストーラが実行された場合	対象となる言語の OPOS がインストールされていません。
アンインストールに必要な情報がない場合	アンインストールシールドの起動時にエラーが発生しました。不完全な形で終了します。いくつかのコンポーネントを手動で削除してください。
レジストリに不正な情報が入っていた場合	レジストリを開くときに不正な処理がありました。アンインストーラは終了します。
レジストリに必要な情報がなかった場合	レジストリの情報が受け取れませんでした。アンインストーラは終了します。
インストールディレクトリに他のファイルがコピーされていた場合	ディレクトリの中にファイルがあるか、ディレクトリが開かれている為、削除できませんでした。これらのコンポーネントは手動で削除してください。
コマンドラインパラメータに不正な値が入っていた場合	パラメータの値が不正です。 Uninstall /s"X.xx" の記述でなければなりません。
コマンドラインパラメータでインストールされていないバージョンが指定された場合	コマンドパラメータで入力されたバージョンの OPOS がインストールされていないか、コマンドパラメータが不正です。
アンインストールするファイルが使用中だった場合	Xxx は他のアプリケーションで使用中です。このファイルを削除する場合は使用中のアプリケーションを終了して「再試行」を押してください。ファイルを残す場合は「キャンセル」を押してください。
複数インストールされている状態で、コマンドラインパラメータに/s パラメータだけが指定された場合	インストールされている OPOS が一つではありません。 バージョンを Uninstall /s"X.xx" の形で指定するか、通常のアンインストールで削除してください。

3.4.2 リカバリツールで表示するメッセージ

動 作	エラーメッセージ
問題解決のために強制アンインストールオプション（リカバリツール）を起動した場合	OPOS Driver および関連するすべての機能を削除してもよろしいですか？

3.5 アンインストール時の注意

- 言語（US 版、日本語版）の相違する OPOS Driver がインストールされている場合は、アンインストールをすることはできません。
- アンインストールでは、OPOS に関連するファイルが使用されていないことを前提に処理を進めていますが、万が一、OPOS に関連するファイルが使用されていた場合には、削除できない旨のメッセージを表示し、リトライを行います。このメッセージが出た場合には、速やかに関連するファイルを使用しているアプリケーションを終了してください。その後、リトライをすることによりアンインストールが続行します。リトライをしなかった場合には、ディレクトリにファイルのみが残ります。
- アンインストーラを実行する場合は、エクスプローラも閉じてください。
- 本アンインストーラでは、インストーラで提供している RP1USB Driver のアンインストールは行いませんが、それらの Driver がインストールしてある状態であっても、その後のシステムの動作には影響ありません。
- サイレントアンインストールにおいて、パラメータに"/m"を指定して実行した場合は、サイレントモードで処理が行われています。そのため、サイレントアンインストールの実行直後には、インストーラを起動しないでください。

第4章 注意事項

- 上書きインストールで CO の登録変更は行えません。CO の登録変更を行いたい場合は、アンインストール後に改めてインストールを行ってください。
- インストールが正常に終了せず、再インストールにも失敗した場合は、以下の手順を行ってください。
 - (1) OPOS をアンインストールする。
 - (2) 本バージョンをインストールする前にインストールされていた OPOS バージョンをインストールする。
 - (3) 改めて、本バージョンをインストールする。